

〈製本の基礎知識〉

〈参考文献〉「印刷工場の基礎知識（改訂版）」印刷出版研究所 編
 「平版印刷技術」日本印刷技術協会 編
 「印刷便利帳」日本印刷新聞社 編
 「印刷用語の基礎知識200」福生真一 編



綴じの種類と方法

製本時の主な綴じ方について下記にまとめる。

綴じの種類	呼称	綴じ方	適用製本	注 意 点	
無線綴じ (糊綴じ)	無線綴じ	別本の背を削り【ミーリング（削り）】、そこに接着剤を塗布して綴じかつ表紙を貼る。接着方法はホットメルトとコールドグルーの2種類があり、コールドグルーのほうが高いが丈夫である。 本の開きが良いため部厚い本も綴じることができ、安価であるが各ページが単独で接着しているため脱落しやすい。	 無線綴じ	並製本 電話帳 時刻表等	ミーリング（削り）代3mm位 無線用ミシン刃使用
	あじろ綴じ	別本の背に大きくミシン切口（穴）を内側まで入れ、切口に接着剤をつけて綴じ、表紙を貼る。接着剤はホットメルトが多く使用される。無線綴じよりは紙の脱落は少ない。	 あじろ	上製本 並製本等	副代用ミシン刃使用 内側までミシン切口が通ること
針金綴じ	中綴じ (まじり綴じ)	折りのセンターを針金で綴じる。折り丁を真ん中より開き、重ねて丁合し表紙の背から中央の見開きページに向かって針金で綴じる。通常、表紙と一緒に綴じる。 のどの開きが良く生産速度が大きく最も安価。部厚い綴じが出来ないのが欠点である。	 中綴じ	並製本 週刊誌 カタログ 小冊子等	折り割れ、背ミシン不可 
	平綴じ	別本を開じたまま重ねて背から4~6mmのどに入った平らなところを針金で綴じ、表紙は接着剤で貼り合わせる。 長所はページの脱落は起きず安価な綴じ方式であるが、のどの開きが悪いのが欠点である。	 平綴じ	並製本 雑誌等	ミーリング代+綴り代7mm位 無線用ミシン刃使用 
糸綴じ	かがり綴じ	丁合された折り丁を1丁ずつ真ん中を開いて背に細い穴をあけ、糸を通して折り丁を縫い重ねて1冊にする綴じ方。 最初の折り丁から最後の折り丁まで1本の糸で連続して綴じられているので1箇所がほつれた場合、ここから全部が解けてしまう可能性がある。部厚い本でものどの開きが良く、紙の脱落がないという長所があるが、欠点として、他の綴じ方と比べ非常に多くの工程を要し、高価な綴じ方である。	 かがり綴じ	上製本 並製本等	折り割れ、背ミシン不可 